

琴似屯田兵入村130周年・北海道遺産選定記念

かがやけコトニ 屯田兵の里まつり

開催期間 8月27日(土)～9月4日(日)

明治8年(1875年)、北海道で初めての屯田兵が琴似に入植してから、今年でちょうど130周年を迎えました。また、平成16年(2004年)11月、琴似をはじめとする道内の「屯田兵村と兵屋」が、次の世代へ引き継ぐべき北海道民全体の宝物として北海道遺産に選定されました。

そこで、この地にゆかりのある人々や各種団体と札幌市の協働によって、歴史を市民に伝え、愛着や連帯感を高め、地域のまちづくりと文化の継承につなげるとともに、未来をつくり上げていくために、「かがやけコトニ～屯田兵の里まつり」として、さまざまなイベントを開催します。

私たちが住む街の歴史を楽しみながら学んでみませんか。



▲正装の屯田兵

◎かがやけコトニ実行委員会に参加している団体

- ・赤い実企画/レッドベリースタジオ
- ・NPO法人 コンカリーニョ
- ・NPO 札幌郷土文化推進センター
- ・(株)らむれす 三角山放送局
- ・琴似十字街商店組合
- ・琴似商店街振興組合
- ・琴似地下鉄駅前商店街組合
- ・琴似屯田子孫会
- ・琴似連合町内会
- ・札幌市西区役所
- ・札幌市立琴似小学校
- ・札幌市立二十四軒小学校
- ・二十四軒東連合町内会
- ・二十四軒連合町内会
- ・日本郵政公社札幌西郵便局
- ・日本郵政公社特定郵便局業務推進連絡会琴似部会
- ・八軒連合町内会
- ・北海道旅客鉄道(株) 琴似駅(五十音順)

屯田兵って？

北海道の開拓の歴史は、屯田兵を抜きにしては語れないほど、深い関係があります。江戸時代から明治時代になり、政府は北海道の開拓と守りを急ぐ必要があると考えました。そこで、開拓使という役所を札幌に作り、やがて札幌の近くに屯田兵を置くことを決めたのです。屯田兵とは、「普段は開墾や農作業をし、必要なときは兵隊になって北海道を守る」という役目を持つ、いわば「農民でもあり兵でもある」人たちです。ですから彼らの生活では、開墾や農作業とともに軍隊としての厳しい訓練も行われていたのです。実際に、武器を持って戦ったこともありましたし、当時は北海道やサハリン(樺太)などについて、外国との間に緊張した状態が続いていました。

昔の琴似は？

今では想像もつきませんが、屯田兵村が置かれた琴似一帯は、まさに原始林でした。これまで人が足を踏み入れたことのない密林のような土地を畑や田に変えようというのですから、夢のような話だったのです。しかし、屯田兵をはじめ開拓者たちの血と汗と、「この地を第二の故郷に」という心が今日の発展の基礎になったのです。当時開拓を目指した土地は、現在の地下鉄東西線・琴似駅がほぼその中心で、これをとりまく琴似、二十四軒、山の手、八軒、発寒一帯でした。その中に、今の旧国道五号から北東の方向に太い中心道路(当時の幅約十八m)を作り、これが現在の琴似本通となりました。計画的な街並みが、既に考えられていたわけですね。